

全般季節予報支援資料 1か月予報

2026年10月15日

予報期間：10月17日～11月16日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北・東・西日本では期間の前半、沖縄・奄美では期間のはじめに、気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。東日本日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	20:40:40 20:40:40	40:30:30 40:30:30	
東日本	日本海側 太平洋側	10:20:70	20:40:40 20:30:50	40:30:30 40:40:20	
西日本	日本海側 太平洋側	10:20:70	20:40:40 20:40:40	40:40:20 40:40:20	
沖縄・奄美		20:30:50	30:30:40	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:20:70	10:20:70	20:30:50
東日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
西日本	10:10:80	10:30:60	10:30:60
沖縄・奄美	10:10:80	20:50:30	20:30:50

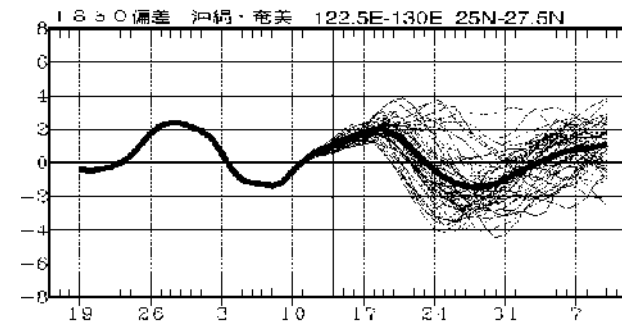
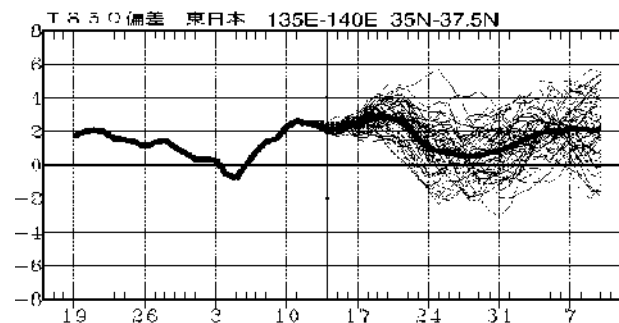
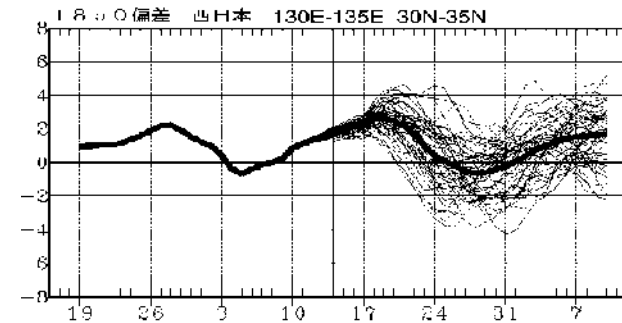
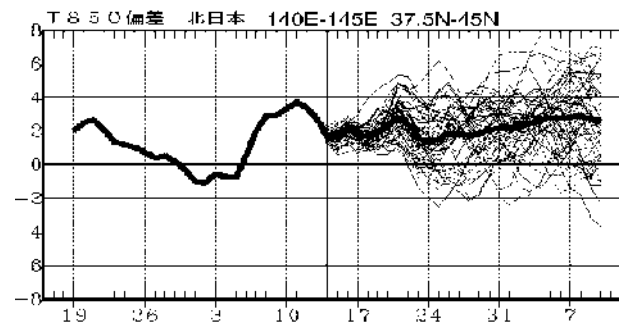
全般1か月予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高いでしょう。特に、北・東・西日本では期間の前半、沖縄・奄美では期間のはじめに、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は、東日本太平洋側で多く、北日本と東日本日本海側、西日本では平年並か多いでしょう。東日本太平洋側と西日本では、向こう1か月の日照時間は平年並か少ないでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(10/17~10/23)	2週目(10/24~10/30)	3~4週目(10/31~11/13)
想定される 天候 (気温)	全国的にかなり高い見込み。	北・東・西日本ではかなり高い見込み。沖縄・奄美では平年並。	全国的に高温。
根拠	全国的に暖かい空気に覆われやすい。 (P12,P13参照)	北・東・西日本を中心に暖かい空気に覆われやすい。 (P12,P13参照)	全国的に暖かい空気に覆われやすい。(P12,P13参照)

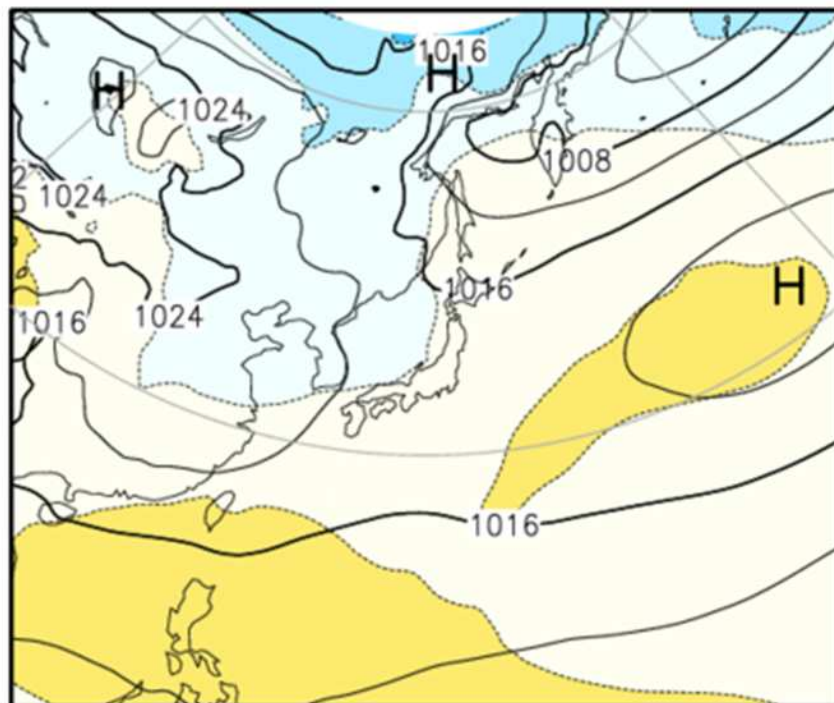
850hPa気温 偏差時系列



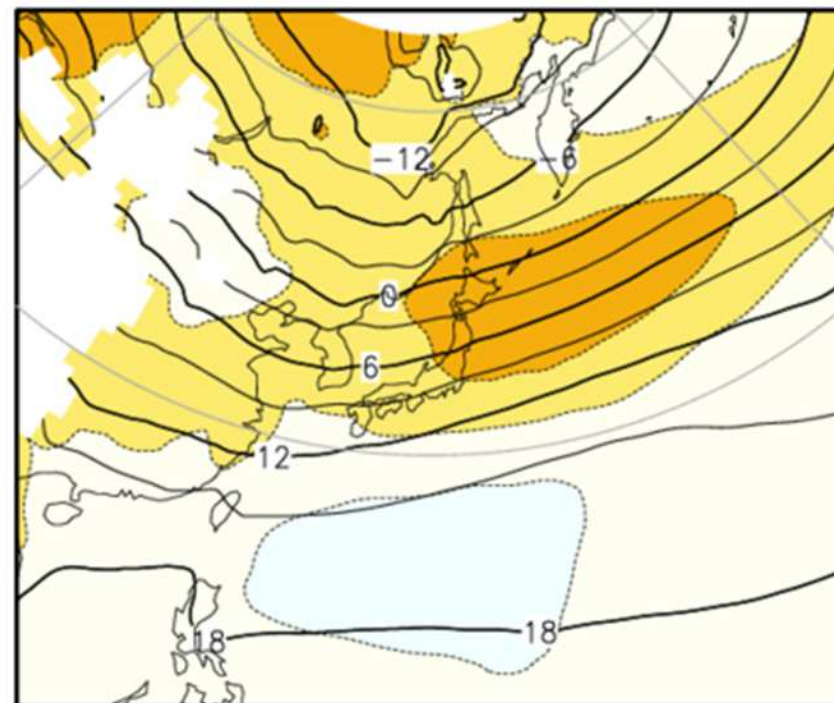
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(10/17～10/23)	2週目(10/24～10/30)	3～4週目(10/31～11/13)
想定される 天候 (天気)	低気圧や前線の影響を受けやすいため、北日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。北日本太平洋側と東・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。	北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。 北・東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 東日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。	北・東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。 沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
根拠	北・東・西日本では低気圧や前線の影響を受けやすいため、北・東日本は多雨傾向、北・東・西日本は寡照傾向。 (P10-P13参照)	東日本太平洋側を中心に湿った空気の影響で、多雨傾向。 (P10-P13参照)	湿った空気が入りやすく、低気圧や前線の影響を受けやすいため、東日本太平洋側と西日本は多雨傾向・寡照傾向、沖縄・奄美は多雨傾向。 (P10-P13参照)

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

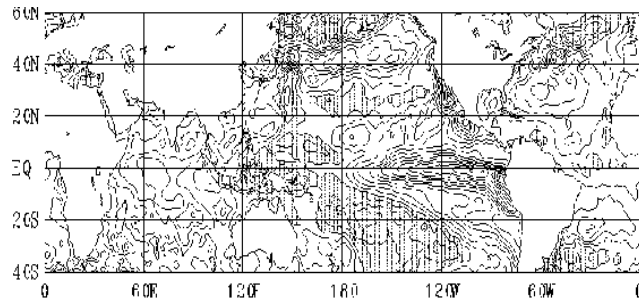


1か月平均の海面気圧(左図)は、日本付近には気圧の谷が予測されています。華中から日本海にかけて平年より気圧が低く、華南から日本の南にかけては平年より高いため、南から湿った空気が入りやすいでしょう。このため、北・東・西日本では低気圧や前線の影響を受けやすいでしょう。

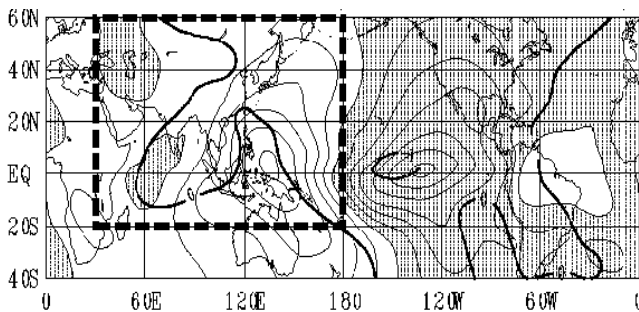
上空約1500mの気温(右図)は、北・東・西日本を中心に平年より高く、全国的に暖かい空気に覆われやすいでしょう。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

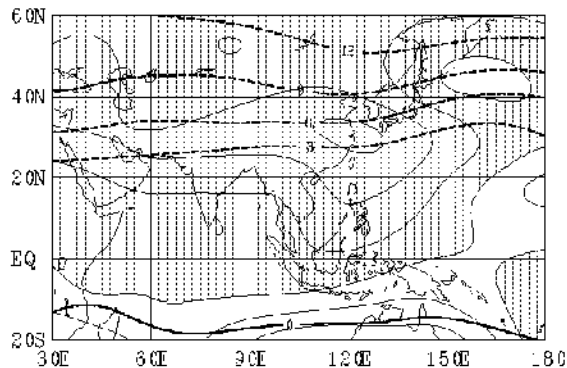
SST偏差



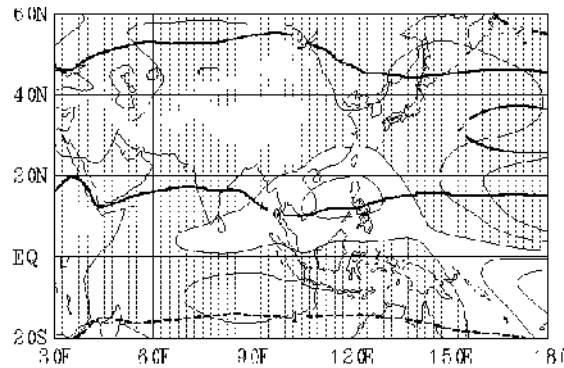
200hPa速度ポテンシャル



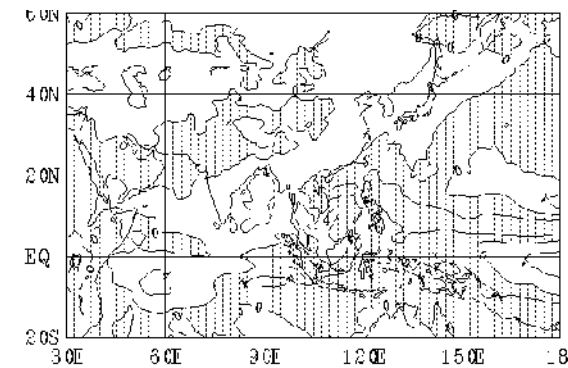
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量偏差



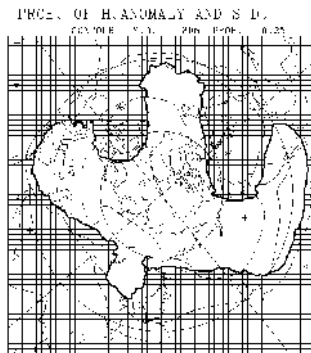
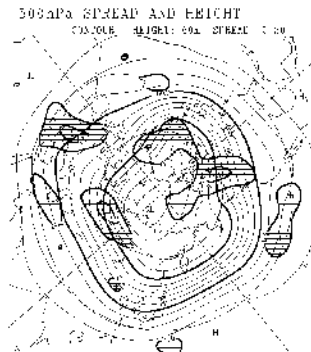
SST偏差は、太平洋熱帯域の中・東部とインド洋で正偏差、太平洋熱帯域西部で負偏差。

200hPa速度ポテンシャルは、熱帯の対流活動に対応して太平洋熱帯域中部から東部で上層発散偏差、インド洋東部から太平洋熱帯域西部で上層収束偏差。

200hPa流線関数は、これらに対応して、日付変更線の西を中心に高気圧性循環偏差。ユーラシア大陸の中緯度帯では低気圧性循環偏差で、亜熱帯ジェット気流は日本付近で南西から北東に流れる。

850hPa流線関数は、日付変更線付近で低気圧性循環偏差。南シナ海付近で高気圧性循環偏差。

降水量は、赤道域の日付変更線付近やインド洋赤道域で多雨偏差。南シナ海付近では少雨偏差。日本付近では、北・東・西日本では多雨偏差。



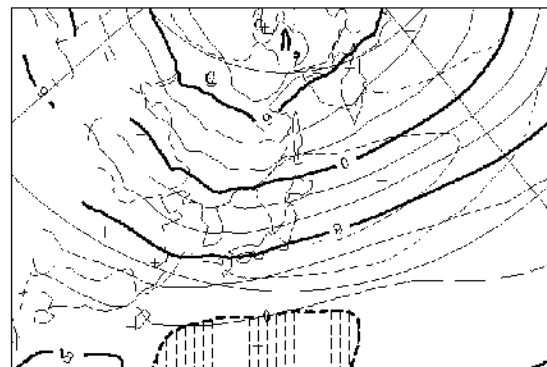
500hPa高度

500hPa高度は、北半球は広く正偏差となっており、西半球側の中緯度帯には波列状の偏差パターンも見られる。ユーラシア大陸から太平洋にかけては、中央アジアや日本のはるか東で正偏差が明瞭で、日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

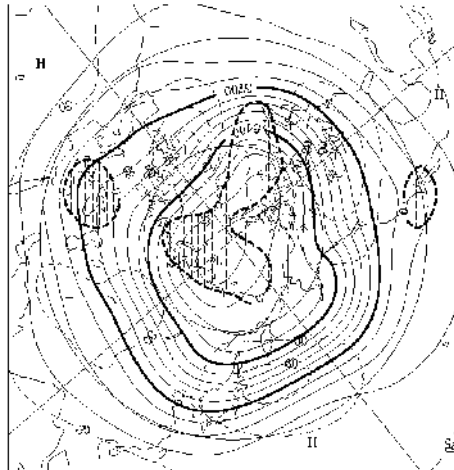
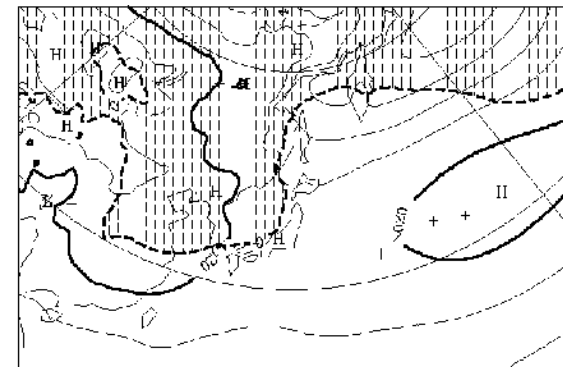
850hPa気温は、北・東・西日本を中心に平年より高く、全国的に暖かい空気に覆われやすい。

海面気圧は、日本付近で気圧の谷。華中から日本海にかけて負偏差で、華南から日本の南にかけては正偏差のため、南から湿った空気が入りやすい。このため、北・東・西日本では低気圧や前線の影響を受けやすい。

850hPa気温

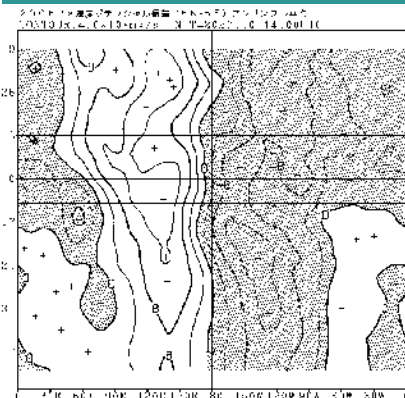


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

200hPa速度ポテンシャル偏差時系列

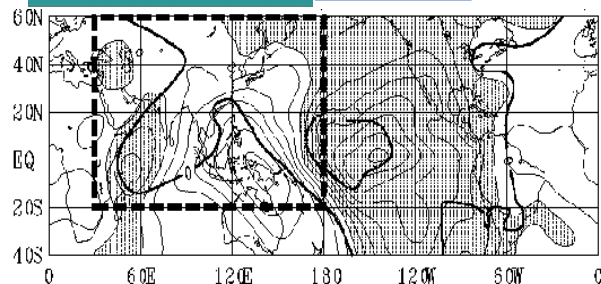


200hPa速度ポテンシャルは、期間を通して太平洋熱帯域の中部から東部を中心に上層発散偏差で、インドネシア付近は上層収束偏差。熱帯の季節内変動は引き続き不明瞭。

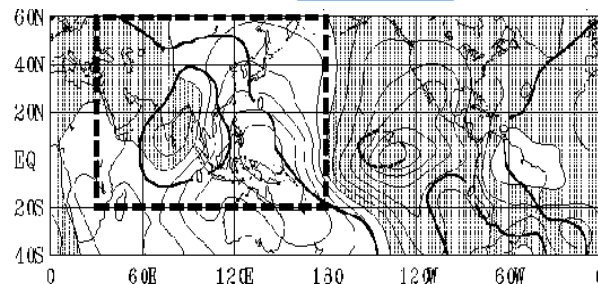
降水量は、期間を通して日付変更線付近の赤道域で多雨偏差で、フィリピン付近では少雨偏差。日本付近では、1週目は北・東日本で多雨偏差。2週目は東日本太平洋側を中心に多雨偏差。3～4週目は東日本太平洋側から沖縄・奄美にかけて多雨偏差。

200hPa速度ポテンシャル

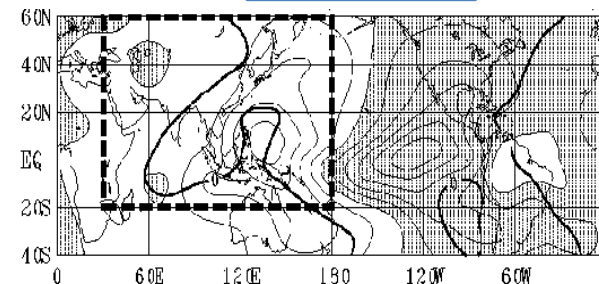
1週目



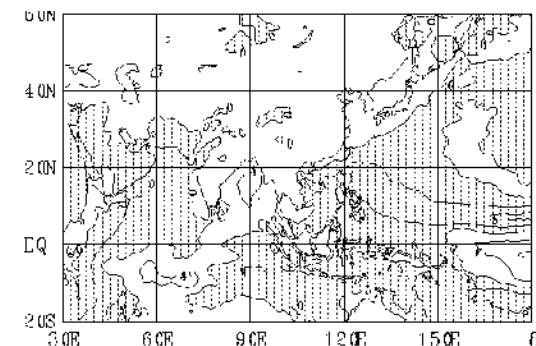
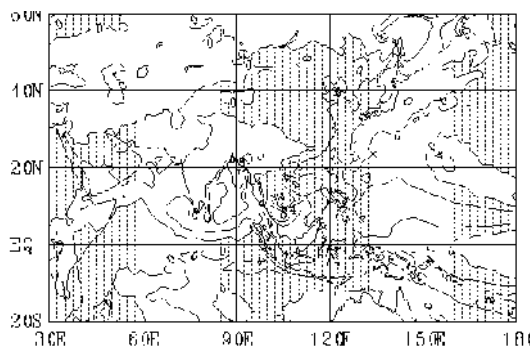
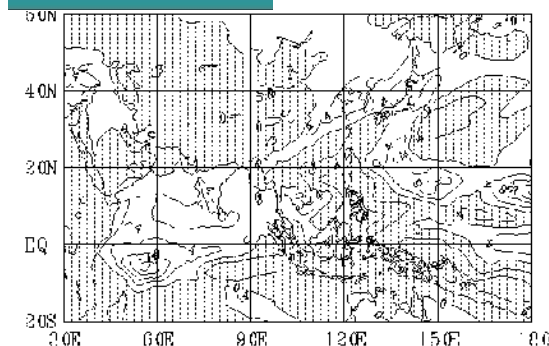
2週目



3～4週目



降水量偏差



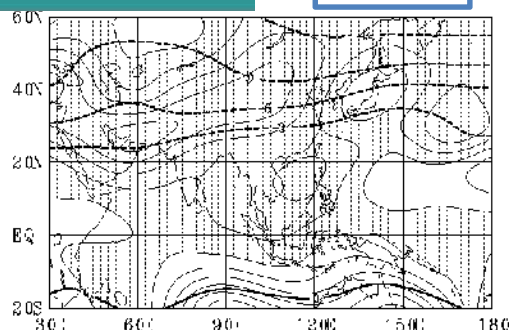
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、期間を通して日付変更線の西で高気圧性循環偏差、ユーラシア大陸上で低気圧性循環偏差が続く。特に1週目は北・東・西日本付近で、2週目は日本の東で高気圧性循環偏差が予想され、日本付近では亜熱帯ジェット気流が南から北に蛇行しやすい。

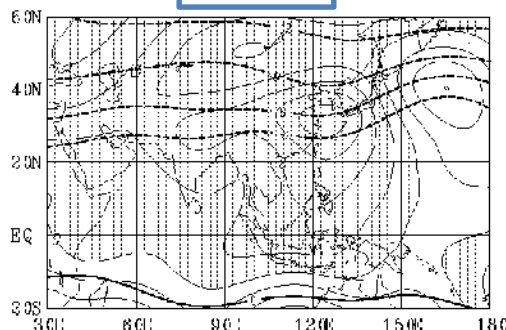
850hPa流線関数は、対流活動に対応して、期間を通して日付変更線付近で低気圧性循環偏差が続く。1週目は、日本の南東海上で高気圧性循環偏差となり、北・東日本中心に湿った空気が入りやすい。2週目は、日本の東から日本付近にかけて低気圧性循環偏差となり、熱帯じょう乱の北上の可能性に対応する。また、3～4週目にかけて、フィリピン付近では高気圧性循環偏差が強まり、東日本太平洋側から沖縄・奄美にかけて南からの湿った空気が入りやすい。

200hPa流線関数

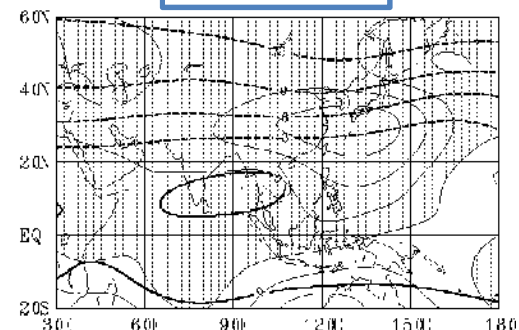
1週目



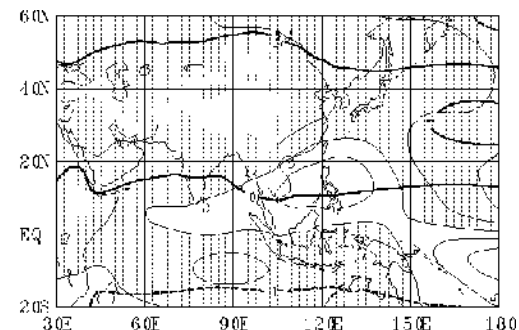
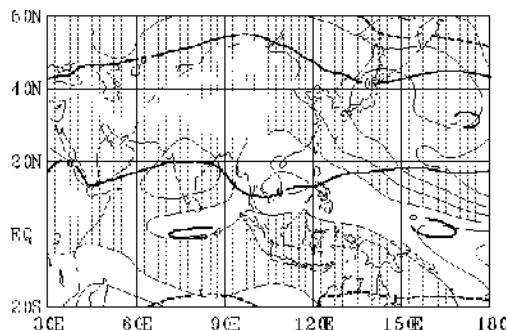
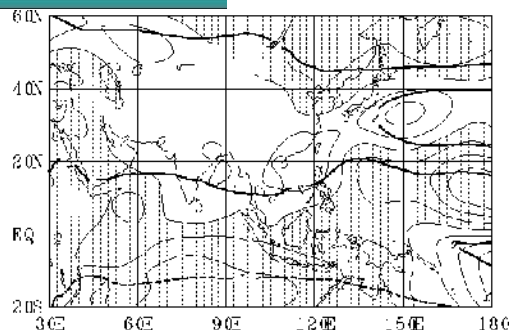
2週目



3～4週目



850hPa流線関数

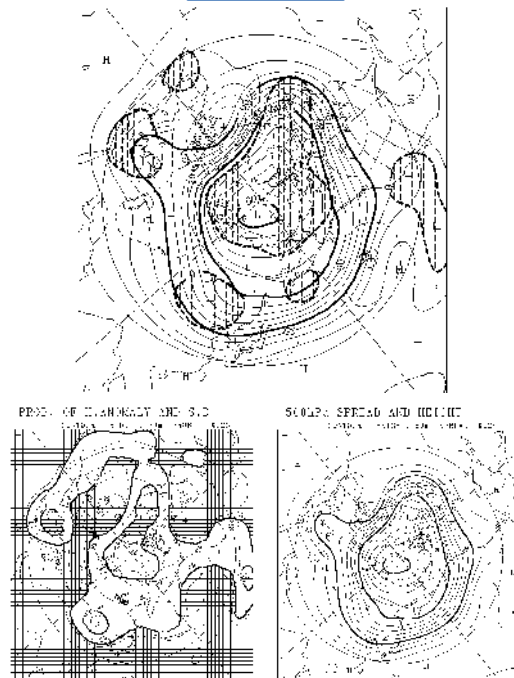


予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

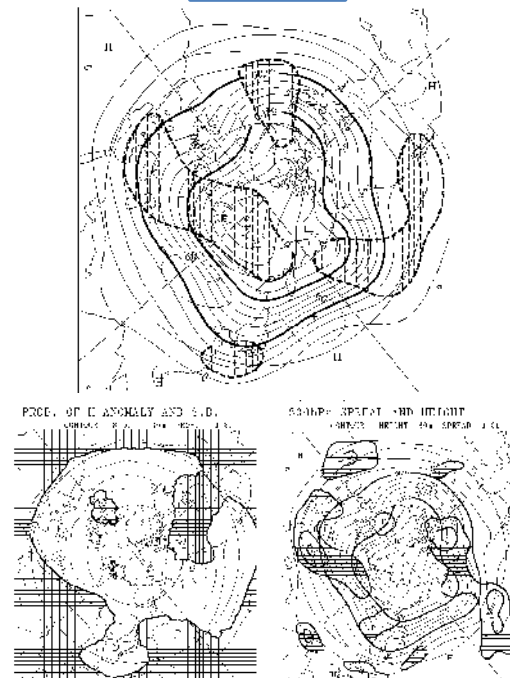
500hPa高度は、1週目は中国東北区でトラフとなり、日本付近は北・東日本を中心に西谷を予測。全国的に正偏差に覆われる。2週目は、日本の東で正偏差、西日本から沖縄・奄美では負偏差で、西谷傾向が残る。3～4週目は、日本の北を中心に正偏差が広がる。ただし、日本の北や上流側での予測のスプレッドは大きく、日本の南の熱帯じょう乱の予測にも不確実性がある。

500hPa高度

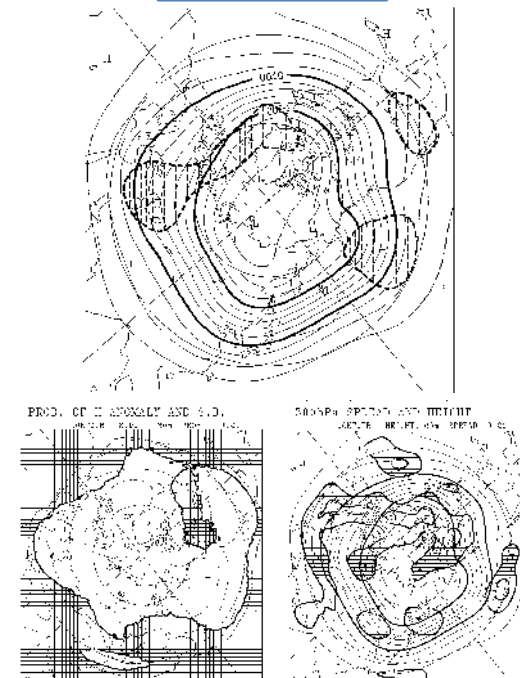
1週目



2週目



3～4週目

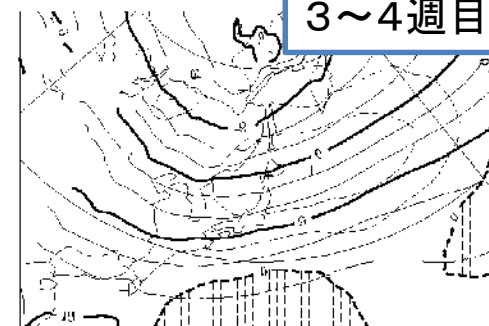
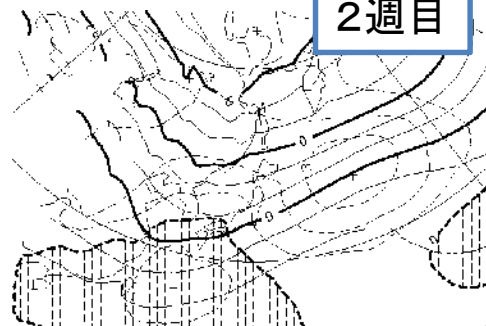
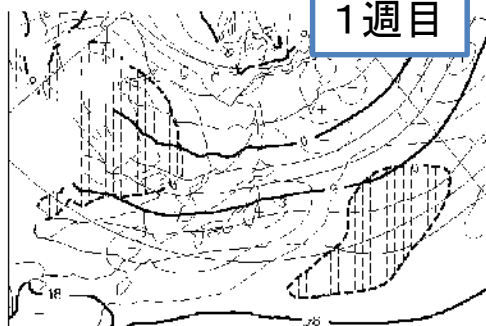


予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

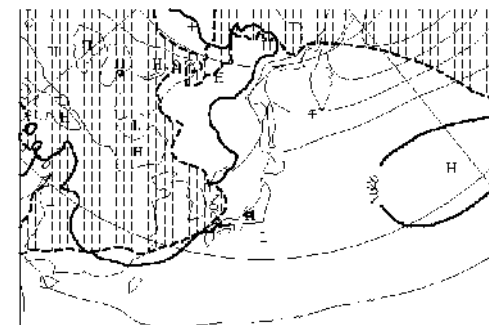
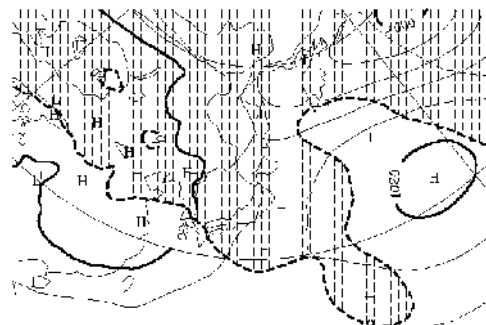
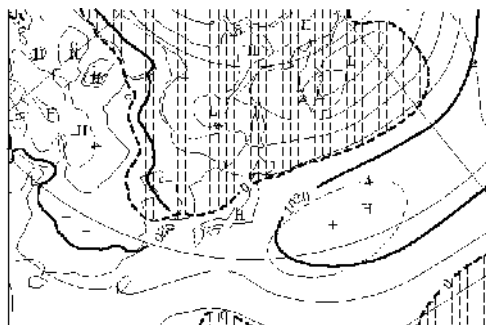
850hPa気温は、1週目は上空のリッジに対応して日本付近では正偏差が広がる。2週目は上空のトラフの東進に対応して、沖縄・奄美を中心に負偏差となる一方、北・東日本を中心に正偏差。3～4週目は再び日本付近で正偏差が広がる。沖縄・奄美では、平年からの隔たりは比較的小さいが、沖縄近海の海面水温が平年より高く、地上気温も平年より高くなると予想される。

海面気圧は、1週目は華南と日本の東では高気圧が強く、日本付近は気圧の谷となる。日本の北から日本海にかけては負偏差で、北・東・西日本では低気圧や前線の影響を受けやすい。2週目は、日本の北から日本の南東海上で負偏差が予測され、東日本太平洋側を中心に熱帯じょう乱の影響を受ける可能性がある。3～4週目は、大陸から東シナ海付近にかけて平年より気圧が低い一方、その南では平年より高く、東日本太平洋側から沖縄・奄美にかけて湿った空気が入りやすい。

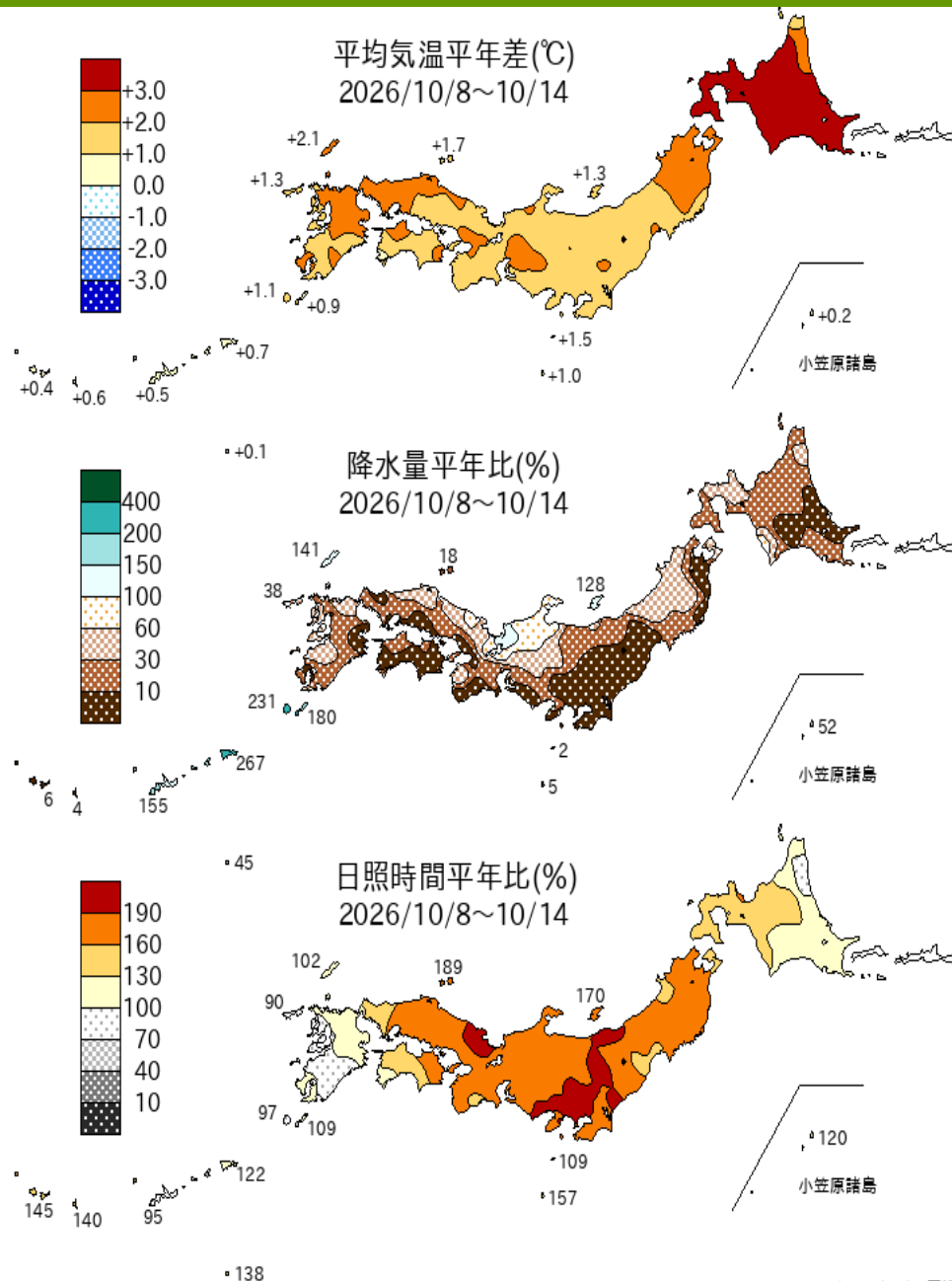
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(10月8日～10月14日)は、気圧の谷や湿った空気の影響で西日本や沖縄・奄美を中心に曇りや雨となった日もありましたが、移動性高気圧に覆われることが多く、全国的に晴れた日が多くなりました。

このため、降水量は九州地方と沖縄・奄美で平年を上回った所があった一方、北日本から西日本にかけて平年を大きく下回った所が多くなりました。日照時間は九州南部を中心に平年を下回った所があった一方、全国的に平年を上回った所が多くなりました。気温は、暖かい空気に覆われる日が多く、全国的に平年を上回りました。

(2026/10/15更新)

All rights reserved. Copyright(c) Japan Meteorological Agency